

# 教育委員会だより

## 上ノ国町立小学校 適正配置計画について

教育委員会では、小学校の適正配置の在り方について検討を重ねて参りましたが、湯ノ岱小学校を河北小学校に、早川小学校、小砂子小学校を滝沢小学校に統合する「上ノ国町立小学校適正配置計画」を策定しました。

### 小学校再編計画は、 なぜ必要なのか

本町の各小学校においては、地域の過疎化と急激な人口の減少により、予想をはるかに超えるスピードで少子化が進んでいます。

今後さらに過疎化と少子化が進行し、児童数が減少していくことが確実であることから、子ども達の将来を考え、より良い環境で学び、成長するためには、町内の小学校をどれくらいの規模で、どのように配置していくかという方向性を示すことが必要と考えられます。

### どうして統合が 必要なのか

極小規模校には次のようなメリットとデメリットがあると言われています。

- ① リットとして①教師が一人ひとりの特性を把握しやすく、きめ細かな指導ができる。
- ② 子どもの学校生活への参加意欲が高くなり互いに教え合う機会が増える。
- ③ 学校が家族的な雰囲気、人間関係が深まりやすく、地域との連携した活動を行いやすいなどが挙げられ、反対にデメリットは、①子ども同士で高め合おう、学び合おうとする気持ちが薄れやすい。②集団活動の機会が少なく社会性の醸成が図りにくい。③人間関係が固定化され、少人数のため表現力やコミュニケーション能力の育成が難しくなる。④職員数が限られるため効果的、弾力的な学校経営が難しく、複数年級では担任の負担が大きいが挙げられます。

これらのことを総合的に判断し、「子どもの利益を最優先」と考え、統合することが必要との結論に至りました。

### 町として望ましい 規模と配置は

平成25年度の町内小学校の児童数は294人で、平成28年度には200人を割り込むことが予想され、極小規模化が避けられない見通しとなり、上ノ国小学校以外のすべての学校が複式学級となります。

特に、湯ノ岱小学校、早川小学校、小砂子小学校（現在休校中）は児童数が5人以下になり、学級数も3学級未満となることから、学

校教育が本来の機能を発揮できる規模と配置、また、通学時間に要する児童の体方面、精神面を考慮した結果、町内を3地区（山方面）（中央地区）（海方面）に分け、各地区に1校を配置することが望ましいと判断いたしました。

### 懇談会を開き 問題点を共有

統合を進めるにあたっては、昨年7月から小中学校の教職員の皆さんとの意見交換により、中心校、極小規模校それぞれが抱える実情と課題を整理し、さらに、昨年12月からは当該校の保護者及び当該地区の住民の皆様に対し、本計画の説明をおこないながら懇談会を開催いたしました。

統合については、児童や保護者の負担とならないようにまた、地域のご意見に十分配慮していく必要があります。

懇談会で寄せられたそれぞれの立場からのたくさんのご意見は、今後の参考にして参ります。

### 統合の対象校と 時期はいつですか

町立小学校適正化の基本方針として、3学級未満が続く学校について統廃合を進めることを基本としています。具体的には、湯ノ岱小学校は河北小学校に、早川小学校、小砂子小学校は滝沢小学校にそれぞれ統合します。

統合の時期については、今後様々な準備等の期間を勘案し、平成27年4月1日から新統合校を開設し、町内を3小学校体制に再編します。

なお、統合にあたってはスクールバスの運行等、児童及び保護者への負担が大きくなるような配慮し、統合後の校舎等の利活用についても、地域の皆様のご意見をお聞きし検討して参ります。

